

探究的な学習の在り方に関する研究推進地域		
連携中学校区：第二中学校区		
連携地域を構成する学校		
学校名	学級数	児童生徒数
三原市立第二中学校	13	382
三原市立三原小学校	19	488
三原市立中之町小学校	17	296
三原市立深小学校	4	22
三原市立鷺浦小学校	3	15

(R4.1.1.1現在で記入)

## 1 研究の概要

### (1) 研究テーマ及び研究のねらい

児童生徒が主体的に探究し、資質・能力を高め合う学びの創造  
～生活科・総合的な学習の時間における  
プロジェクト型学習の考えを基にして～

生活科・総合的な学習の時間におけるプロジェクト型学習の実践を通して、「本物の探究」を実現し、主体性及び各校で設定した資質・能力を効果的に育成することをねらう。

### (2) 資質・能力の設定について

二中校区で統一して育成を目指す資質・能力として「主体性」を設定した。三原市教育基本理念に照らし、二中校区での「主体性」を認識、思考、行動の3要素で整理した。

### (3) 取組について

#### 【「本物の探究」の実現に向けた取組】

二中校区でのプロジェクト型学習として、昨年度より「三原だるまプラン～ちょっと好きからのもっと好き～」の単元構成を新たに構築し、全校で取り組んでいる。次の図1が、三原だるまプランの大きな単元構成と児童・生徒の主体性を育成するための2つのポイント（①児童・生徒と教師で作成したルーブリック評価、②ショックを伴う探究課題の更新）を示したものである。今年度も、校区で三原だるまプランの取組を継続した。

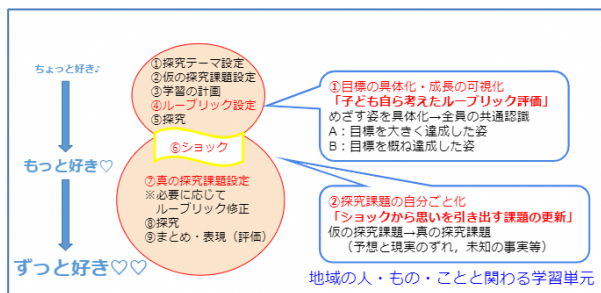


図1 「三原だるまプラン」の単元構成と2つのポイント

昨年度の実践を整理して、今年度は、だるまプランの単元構成を4つ（ショック一発型、ショック多発型、ショックいきなり型、ショックいきなり多発型）に整理した。図2の通りである。今年度は、児童・生徒の興味や関心、教師の意図、題材の特性を汲んで最も適した型を適用して、学習を始めた。



図2 三原だるまプランの型

また、今年度は、昨年度の実践から、ショックのタイプも3つに整理した。ショックの経験から、児童生徒の思いや願い、問いを引き出し、探究課題を更新につなげることをねらい、ある程度計画的に、ショックを単元計画の中に位置づけることを重視した。

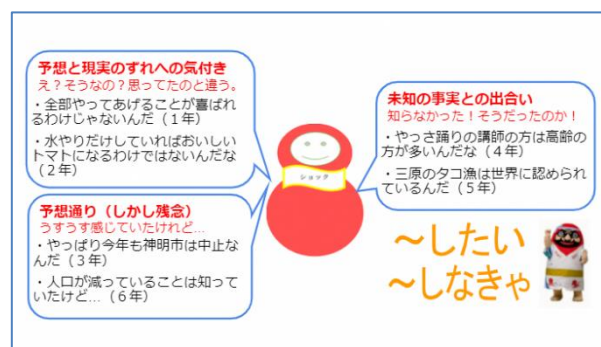


図3 三原だるまプランにおけるショックのタイプと例

#### 【昨年度の反省を生かした今年度の取組】

昨年度の実践は、次の4点である。

- ①ルーブリックの活用が不十分だったこと。
  - ②資質・能力の評価が児童・生徒の自己評価中心だったこと。
  - ③思考力や表現力の育成が不十分だったこと。
  - ④全ての児童・生徒にとっての主体的な探究ではなかったこと。
- 以上を踏まえ、4つの重点ポイントを意識して取組を行った。

#### ①子どもルーブリックの定期的な修正

児童・生徒の実態を反映したルーブリックにするために、年度はじめに設定した子どもルーブリックを定期的に修正することにした。今年度は、1学期に最初の子どものルーブリックを設定し、2・3学期のはじめに修正を行った。

#### ②他者評価の導入と自己評価の工夫

自己評価だけでなく、友達同士の相互評価や、関わっていただいた地域の方からの外部評価など、自分の成長を客観的に捉えられるよう、評価の幅を広げた。なお、教師からの評価は、成果物や児童生徒の行動の評価など、視点を定めて継続した。

また、自己評価の時間でも、学習活動を想起できるように、これまでの学習活動の様子が分かる写真や成果物を提示し、自分の言動や成長を自覚できる工夫をした。

#### ③効果的な思考ツールの活用

思考力や表現力を効果的に育成していくために、必要に応じて思考ツールを活用した。発達段階や児童・生徒の実態に合わせて、個人での活用、グループでの活用、学級全体での活用等、無理のない形で授業に導入した。

④個人の興味や疑問を反映できる単元構成や学習活動の工夫

一人一人の児童・生徒の興味や疑問を大切にし、全員の児童・生徒の主体的な探究を実現するために、単元の中に、自己決定の場を意図的に設定した。テーマを選ぶ場面や、活動を選ぶ場面をつくり、児童・生徒が自分の意志で選択し、決定することで主体性を引き出せるように工夫した。

2 実践事例

上記の重点ポイントを意識した実践例を挙げる。

①子どもルーブリックの定期的な修正

4月に、教師と児童で話し合ってルーブリックを設定し、学習を始め、1学期の学習を経て、修正の必要を感じた資質・能力のみ、9月に修正を行った。なお、夏季休業中に、職員で修正案をあらかじめ検討し、児童に意見を求める形で修正したので円滑な修正を行うことができた。3学期は修正の必要が感じられなかったため、修正を行わなかった。

三原小学校での学習でつけた力 (4年)		三原小学校での学習で働いた力 (5年)	
★ 主体性	自分で決めて行動する力	A 自分で課題を決めて、目的に沿ったよい方法を自分で探して課題解決しようとしている。	A 自分で課題を決めて、目的に沿ったよい方法を自分で探して課題解決しようとしている。
	B 自分で課題を決めて、目的に沿ったよい方法を自分で探して課題解決しようとしている。	B 自分で課題を決めて、目的に沿ったよい方法を自分で探して課題解決しようとしている。	B 自分で課題を決めて、目的に沿ったよい方法を自分で探して課題解決しようとしている。
★ 協働性	友だちと協力する力	A 自分の意見を大切にしながら、友だちの意見も大切にしながら話し合ったり行動しようとしている。	A 自分の意見を大切にしながら、友だちの意見も大切にしながら話し合ったり行動しようとしている。
	B 解決に向けて、友達やグループの意見も大切にしながら話し合ったり行動しようとしている。	B 解決に向けて、友達やグループの意見も大切にしながら話し合ったり行動しようとしている。	B 解決に向けて、友達やグループの意見も大切にしながら話し合ったり行動しようとしている。
★ 探究力	問いや答えをみつける力	A 問いや答えを見つけたら、新しい問いを見つけたら、答えを考えたり見つけたりしている。	A 問いや答えを見つけたら、新しい問いを見つけたら、答えを考えたり見つけたりしている。
	B 問いや答えを見つけたら、新しい問いを見つけたら、答えを考えたり見つけたりしている。	B 問いや答えを見つけたら、新しい問いを見つけたら、答えを考えたり見つけたりしている。	B 問いや答えを見つけたら、新しい問いを見つけたら、答えを考えたり見つけたりしている。
★ 学びの楽しさや意義を味わう力	理由を考えて、上手につたええる力	A 目的に沿った方法を決め、課題を解決しようとしている。相手から分かるように自分の考えを伝えようとしている。	A 目的に沿った方法を決め、課題を解決しようとしている。相手から分かるように自分の考えを伝えようとしている。
	B 目的に沿った方法を決め、課題を解決しようとしている。相手から分かるように自分の考えを伝えようとしている。	B 目的に沿った方法を決め、課題を解決しようとしている。相手から分かるように自分の考えを伝えようとしている。	B 目的に沿った方法を決め、課題を解決しようとしている。相手から分かるように自分の考えを伝えようとしている。
★ 知識・技能	知っていること、できること	A 身に付けたことを様々な学習の中で活用している。	A 身に付けたことを様々な学習の中で活用している。
	B 身に付けた内容を身に付けている。	B 身に付けた内容を身に付けている。	B 身に付けた内容を身に付けている。

図4 三原小4年と6年のルーブリック修正案

②他者評価の導入と自己評価の工夫

成果物を児童が評価し合ったり、自己評価の際に学習場面を想起できる写真や動画を提示したりして、評価方法を工夫した。



写真1 活動の動画を見ながら自己評価をする三原小3年児童

③効果的な思考ツールの活用

必要に応じて、学習の中で思考ツールを活用した。ホワイトボードやジャムボードを活用し、より学習効果が高いと思われる方法を選択した。



写真2・3 思考ツールを活用する2年生児童と5年生児童

④個人の興味や疑問を反映できる単元構成や学習活動の工夫

児童の興味や疑問に応じて、探究テーマを変更したり、個人で自分の興味や疑問を追究できる時間を設けたりするなど、単元構成や学習活動を柔軟に扱った。

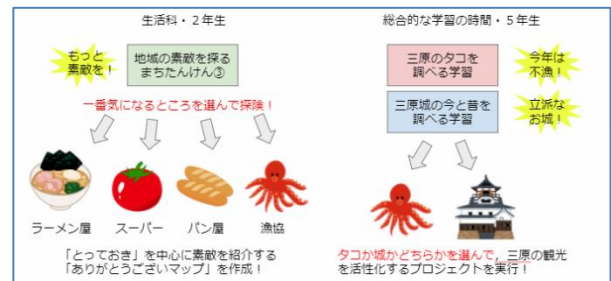


図5 三原小2年と5年の児童の興味・関心を重視した活動の例

3 研究の成果と課題等

(1) 成果

1年間の取組を通して、4月と12月に行ったアンケートの結果に変容が見られた。小学校6年生と中学校3年生の例を示す。

表1 小6・中3の肯定的評価の割合の変容 (4・5月→2月)

質問項目	第二中	三原小	中之町小	深小	鷺浦小
認識	+7.1	-2.6	+7.2	+20	+20
思考・行動	+2.1	+3.5	+0.1	±0	+40
行動	+4.9	-0.3	+2.4	+20	+20
探究	+5.1	-4.2	-7.2	±0	+40
PBL (地域)	+4.9	+1.7	±0	+40	±0

数値が下がった項目もあったが、全体的には向上した。また、ノート等に「先生に言われなくても、自分で考えて書くことができました」(3年児童)「質問したいことがたくさん出てきたので、主体性がのびたなと思いました」(5年児童)といった表現が見られ、アンケートでの自己評価のみならず、記述の面でも資質・能力の成長を自覚する児童が増加したことが窺えた。

(2) 課題

校区全体における課題は大きく2点挙げられる。

1点目は、ルーブリックの活用が十分でないことである。子どもルーブリックの作成、修正を行うことはできたが、効果的な活用には至っておらず、課題がある。

2点目は、児童・生徒の興味・関心に寄り添う活動を展開するための準備時間の確保が難しいことである。児童・生徒それぞれの思いを実現させるための方法は多岐にわたる、外部との連携や教材の準備など、教員の負担が大きくなってしまっている実態がある。

(3) 今後の改善方策等

以上で挙げた2つの課題を改善するために、来年度は次の2点の改善方を講じていきたい。

1点目は、ルーブリックを効果的に活用するために、児童・生徒、教師双方が有意性を感じられるルーブリックの内容や活用方法を提案していきたい。具体的には、ルーブリックの内容をキーワード化したり、単元別で作成したりすることで、児童・生徒が常に意識し、自分の成長を感じ取ることができるものにする。

2点目は、児童・生徒の思いに寄り添いつつ、外部との連携や教材の準備の複雑化を防ぐために、目的に照らして、活動の内容や連携先を整理し、児童・生徒の活動をある程度グループ化した上で、複数の教員で役割を分担する等、持続可能な指導のシステムを構築する。